

「崎原小学校の炭作り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立崎原小・中学校

2 学年・人数

全学年（19人）

3 日時・場所

（1）事前学習・窯の清掃活動

平成30年11月27日 創意・総合的な学習の時間（教室・校内炭焼き窯）

（2）窯への木入れ・火入れ

平成30年11月30日 創意・総合的な学習の時間（校内炭焼き窯）

（3）炭の取り出し・袋詰め

平成30年12月20日 創意・総合的な学習の時間（本校炭焼き窯）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）名称

炭作り（すみづくり）

（2）由来

本校区は、古くから炭窯を使っての炭作りがさかんに行われていた地域であったが、電力の普及や過疎化に伴い、炭自体の需要・後継者不足等により、地域の伝統的な産業は衰退した。そこで、かつて地域で行われていた炭作りを学校行事に取り入れ、地域住民の協力を得ながら活動に取り組んでいる。

（3）活動内容等

まずは、学校林から材料となる木を伐り出し、窯に入る大きさに切りそろえる。木の伐り出しには、中学生も運び役として参加した。窯に入れる大きさに切りそろえ、窯に木を立てるように並べ、隙間にも小さな木を入れた。その後、窯に火を入れ、火を消さないように約5日間燃やし続け、煙の色の変化を見ながら、火を止め、窯を閉めた。窯が冷えるのを待ち、炭を取り出し、袋詰めを行った。完成した炭は子ども会行事（歩こう会）で販売した。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年、木の伐り出しは地域住民、教職員、保護者で行っている。中学生は伐り出した木の運び手として活躍している。授業においては、炭作りの工程の説明はじめ、窯の修理、火入れ、煙の変化の見極め、火止めの判断、炭の取り出し等、その工程全般において、地域の方々にご指導をいただき、炭の完成を目指して取り組んだ。窯の火を止めてはいけない期間が5日間ほどあるため、地域の方と教職員とが協力し、朝・夕の薪入れを行い、窯の火を燃やし続けた。

